

## 令和元年度 第2回燕市子ども・子育て会議 会議録

- ・開催日時 令和元年8月5日(月)午後3時40分～午後5時40分
- ・開催場所 燕市役所 会議室301
- ・出席委員 高山委員、関戸委員、玉橋委員、若林委員、星野委員、瀬戸委員、田邊委員、宮路委員、小池委員、田中委員、本間委員
- ・欠席委員 西川委員、長谷川委員、鈴木委員、富樫委員
- ・事務局 遠藤教育長、宮路教育次長、白井子育て支援課長、小林指導主事、加藤課長補佐、高山課長補佐、大西副参事、大塚副参事、  
(説明員：総務課遠藤係長、地域振興課石黒課長補佐、社会福祉課：渡辺課長補佐、笠原係長、健康づくり課篠田副参事、保険年金課廣瀬課長補佐、学校教育課清水課長補佐、社会教育課和田主任、)  
(委託業者：日経マシナリー熊倉)

### ・会議次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議題
  - (1) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画(素案)《資料1》
  - (2) 事業所内保育事業の利用定員の設定等に係る意見聴取について《資料2》
- 5 その他
- 6 閉会

### 1 開会

〈事務局より開会のあいさつ〉

### 2 教育長あいさつ

- 本日の会議では、まず、第1回の会議で概要を説明した、「第2期燕市子ども・子育て支援事業計画」について、素案をお示しさせていただく。
- この子ども・子育て支援事業計画の基本理念は「輝く未来へ！笑顔あふれる 子育てのまち つばめ」となっており、この基本理念には、燕市の未来を担う人材である子どもたち、子育てをする親たち、地域の人たちの笑顔があふれるように、親も子どももみんなが安心して生活できる子育て支援が充実したまちを目指し、子どもたちの未来が夢や希望に満ちた輝く未来になってほしいという大変欲張った願いが込められている。
- 子どもたちは大切な宝だと思っている。子どもは大人たちのたくさんの願を受け止めてくれる対象だろうと思っている。
- 本日は、素案の段階であり、未完成の段階なので、皆様方から忌憚のないご意見が必要だ、素案は骨みtainなもので、委員の皆様から肉付けをしていただく必要があると思っている。

- 二つ目は、「事業所内保育事業の利用定員の設定等に係る意見聴取」についてである。新潟中央ヤクルト販売株式会社様が主に従業員向けに認可保育園としての設置を予定している。こちらについても今現在の状況を説明させていただき、皆様方からご意見を頂戴したい。
- 長時間の会議となるが、委員の皆様のお時間を頂戴したので、有効に活用させていただきたい。よろしくお願いいたします。

### 3 会長あいさつ

- 第2回の会議となった。教育長から、いっぱい欲張った理念が書かれているとご挨拶があったが、欲張っていいと思う。私はいろいろ子どもの福祉にかかわっているが、どうして子どもが大事にされないのかと思うことが多々ある。なんとかその方向性を変えていきたい、子どもが大事にされる社会をどうやったらつくっていけるかということが、今とても求められている。結果的に、次の時代を担ってくれる子どもたちを育てていくことになる。
- 燕市のことは、燕市に住んでおられる皆さんが一番よくわかっておられる。ぜひ忌憚のない意見をいただければと思う。
- 今回、ニーズ調査に基づいた案を事務局から示される。骨ではあるが、方向性のところであるので、委員の皆さんと一緒に肉付けしていく時間になればと思っている。

(教育長退席)

## 4 議 題

### (1) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画（素案）

<事務局から資料1の説明>

<質疑応答>

(会長)

前半は第1章から第4章まで、後半は第5章以降に分けて、それぞれ事務局が説明を行い、その後、質疑を受けたい。35頁、基本理念・基本目標のところでは質問はないか。

(委員)

36頁、基本目標3「健康で豊かな心に満ちあふれた子どもの成長のために」で「食育を通じて母子の健康と健やかな成長を支援します。」とある。食育も大事であるが、「眠育」も大事であると考えている。5年前から燕南小学校で始まり、早寝早起きに取り組んできている。今では燕中学校区の小・中学校で取り組んでいる。

(事務局)

➤ ご意見としてお聞きしておく。事業に落とし込んでいく必要があるので、それを含めて検討していく。

(会長)

大切なことであるが、事業としてどう落とし込んでいくかが必要なため、検討させていただきたい。

(委員)

6 頁、(2) 世帯の推移のところ、人口減少は大変な課題になっているが、核家族化に対する対策は考えられるか。

(事務局)

➤ 市としての施策はないと思う。同居世帯ではないが、おじいちゃん・おばあちゃんが近くに住んでいて、何らかの応援・援助を受けていることがニーズ調査から見えていると感じる。民間ではアパートを造って核家族化を助長しているような傾向があるので、それを施策で市が抑えるのは難しいと思う。

(委員)

核家族を抑え込むというのは表現がよくないが、同居することに対するいろいろなメリットデメリットが考えられる。子育て支援は、子育て家庭に対するお金の支援があげられると思うが、多角的に考えていかないと施策を講じて、いくら投資しても数字に表れず空振りに終わることになるので、多角的に考える姿勢が大事だと思う。

(事務局)

➤ 人口対策プロジェクトにも出たが、個別の施策では成果がでていないが、トータルの子どもや人口が減っているのは全国的な流れなので否めない。

(会長)

この子ども・子育て会議でまちづくりを扱うのは荷が重い、就労形態なども含めてどのような家族形態が望ましいかを考える必要がある。6 頁の図と文章で核家族化が進んでいると結論付けるのはおかしいので、修正が必要と思う。1 世帯あたりの人員が年々減少しているだけであって、核家族化の進行は②で書くべきである。「核家族化が進行しているといえます」は場所を移動させるべき。今、どの世帯が増えているかと言ったら、核家族ではなく、高齢者の単身世帯、お年寄りの 1 人暮らしだ。いずれにしても、この会議でできることを整理しながら進めさせていただきたい。

(会長)

続いて、第 4 章の教育・保育の確保について、ご質問はあるか。保育の量の見込みでは、3 号認定の 0 歳児は、0 歳児のほとんどが入園するような数字になっている。

(委員)

この数字はどういうところからでてきたのか。

(会長)

計画案をつくられた委託業者の方が出席されているので、説明してもらえるとありがたい。

(委託業者)

➤ まず、アンケートで家族類型について 1 号認定、2 号認定などの基本ベースにまず分けて、実際の特定の 13 事業について利用したい、利用したくないの要望の出現率を基に、1 号認定、2 号認定、3 号認定の類型に分けて、出現率と人口の推移を合わせて、5 年間の計算をしている。実際の内容については、利用するとお答えした人を一旦そっくりそのままあげており、精査していない。数字上は一旦載せさせていただいているというふうに捉えていただきたい。

(会長)

国が、ニーズ調査はこのように調べなさいといっているやりかたでやると、どこの

自治体もこういう結果になる。どの団体も特に0歳児の見込みが一番ぶれる。実際、第1期を見てもらうと見込み量と実績が大きく乖離している。第2期では、最大のところまでは確保しなくてもいいのかなと思っている。

(委員)

過去の実績から推測して今後はどうなるのか。最大値365とあるが推計はでているのか。

(事務局)

➤ 今後、精査していくこととなる。

(会長)

各年度の見込み量は最大値が入っているという認識でいいですね。評価及び今後の提供体制と確保の考え方について、ここには数字は入っていないが、今回の骨子とはそんなに変わらない文章かと思う。気になる表現があればご指摘いただきたい。

(委員)

43頁、1号認定3～5歳児で、保育料の無償化が始まると1号から2号に変わる子どもが多くなるのではないかというのが、もっばらの定説である。1号認定から2号認定に園児が移ると見込まれているがどうか教えてほしい。

(事務局)

➤ 現在でも1号認定から2号認定に移る傾向は出ているので、さらに加速すると推測している。

(会長)

まだ読めない。保護者の皆さんがどういう行動に出るか、今は本当に未知数だ。読めない中で何号認定はどうかと一応出してもらい、見直しをされるのであればその時に修正が必要なのかと思っている。配慮して、気を付けながら数字を出していただきたい。細かい数字の精査まで私たちはできないので、こういう傾向で行くんだなと思っていただければそれでよろしい。

(会長)

44～55頁までの地域子育て支援事業の13事業について、ご意見をお願いしたい。

(委員)

46頁、「子育て支援センターの機能強化を図るとともに、空白地域などに支援センター職員が出向き、相談や情報提供などを行います。」とあるが、空白地域とはどこのことか。

(事務局)

➤ 小池、大曲、水道町辺りは支援センターがないので、去年・今年と保育室を改修し、各支援センター職員が出張し、近隣に住む子育て中の方々の相談を受けている。必要があれば拡大していく。

(委員)

49頁、養育支援訪問事業で増加傾向は分かるが、その要因とそれに対する施策は何か。一概には言えないが、核家族化もその要因になっているか。

(事務局)

➤ 核家族化もあるが、育児不安を訴える人が増えていて、その方を支える身内やお友達が少ないといった場合に支援の対象になっている。もしくは、お母さんが疾患をもっていて子育てができない人に支援をしている。対応策としては、母子手帳発行時にアンケートをとり、母親の状況を把握した上で、妊婦時代から助産師や保健師が訪問し、出産前からの関わりを増やしている。そのため件数が増えている。

(事務局)

➤ おじいちゃん・おばあちゃんが近所にいて、何らかの応援・援助を受けている場合もある。一方、転勤等で転入の方たちは、周りにお友達もいないし、おじいちゃん・おばあちゃんも来にくいし、お父さんの仕事が忙しく、お母さんに寄り添ってあげられない場合もある。

(会長)

家庭に入っただけのサービスは少ないが、不安や孤立している人たちのところに入っていったアドバイスだけでなく、具体的に家事支援とか直接支援することもこの事業の特徴だ。そこでサポートすることで、家庭環境が整っていくので大事な事業になる。ニーズとしては増えてきているのではないかな。放置するとネグレクトに進む家庭もあるので訪問している。

(委員)

49 頁、ネグレクトが進み、保育の現場では乳児期のアタッチメントがうまくいかなかったせいで、衝動的で、二次的な障がいのある子が増えているので、養育支援は大事である。利用者支援事業の基本型と母子保健型があり、母子保健型で包括支援センターをやっているということであるが、総合的な包括支援センターを考えているか。また、子育て支援の現場では社会福祉士を採用しているが、相談援助の専門職が子育て支援の現場でも必要だと思っている。

(事務局)

➤ 今後は支援センターでもやっていきたい。

(会長)

それでは後半の第 5 章、事務局は説明をお願いします。

<事務局から資料 1、頁 56、第 5 章の説明。第 6 章は策定中。>

(会長)

今説明のあった第 5 章について質問を受けたい。

(委員)

37 頁、基本目標 1 で(1)～(4) までであるが、本章の 57～60 頁は(1)～(3) までしかない。

(事務局)

➤ 現段階では該当するものがないので (4) に該当するものは入っていないが、今後

当てはまるものがあれば必要に応じて入れていきたい。案なのでまた変わってくる可能性がある。

(委員)

125 頁、保育所等訪問支援について、平成 30 年度実績 2 人となっているがニーズはもっとあったと思う。保育現場の質を上げるため、障がい児の保育を充実するために、訪問支援は有効であるので続けてほしい。

(事務局)

➤ 検討したい。

(委員)

99 頁、幼児教育・保育の質の向上で「幼児教育・保育の専門的な知見や豊富な実践経験に基づき、幼稚園教諭や保育士に対して、アドバイザーが教育内容や指導方法、指導環境の改善を行います。」とある。55 頁「(2) 質の高い教育・保育の提供について」のところで、「幼児教育アドバイザーの配置を見据え」となっているが、どのような方を考えているのか。燕市においては、質の高い教育をしてほしいと思っている。

(事務局)

➤ 幼稚園副園長を経験したOBやOGを想定している。

(委員)

61 頁、ワーク・ライフ・バランスの推進について、産業振興協議会で人手不足対策も協議になっているが、従業員 10 人以下だと、就業規則の届出義務もない中で、どのように手当てしていくかが重要だと思っているので検討してほしい。

(事務局)

➤ 検討しながら進めていく。

(会長)

まだ気付いた点もあろうかと思うが、本日「第二期子ども・子育て支援事業計画に対する意見・質問表」が用意してあるので、そちらに記入し、メールか FAX で 8/19 までに事務局に送って欲しい。

## (2) 事業所内保育事業の利用定員の設定等に係る意見聴取について

<事務局から資料 2 の説明>

<質疑応答>

(会長)

今の説明の件について質疑を受けたい。

(委員)

今までやっていた無認可のいくつかを統合してやるということなのか？

(事務局)

➤ 現在燕市に2つのセンター、燕センターと吉田センターが、また三条市に月岡センターがあり、その3つを統合してこの場所に事業所と事業所内保育施設を作りたいと聞いている。

(委員)

事業所内保育の場合連携園は必要ないのか？

(事務局)

➤ 連携園を設置することになっている。保育の研修とか、年齢の上の子どもたちとの交流などが図れるように連携する施設を設置するようになっている。

(委員)

そちらのやり取りも必要となってくるのではないか。

(事務局)

➤ 今後は他園、事業者と話し合いをしていきたい。

(委員)

今後は知らせるべきところには知らせ、他の認可園や無認可園との連携も必要だ。

(事務局)

➤ 先ほど言い忘れたが、3頁の一番下のところ、卒園後の受け皿は地域の子どものみ対象とするようになっている。

(会長)

以上で議題を終了する。

## 5 その他

(事務局)

次回第3回の開催については、10/31(木)13:30を予定しており、会議の案内は改めて案内させていただく。

## 6 閉会

(会長)

これで、本日の全ての議題が終了したので、議長の任を解かせていただく。

(事務局)

以上をもって、第2回子ども・子育て会議を閉会する。